

穂肥診断マニュアル

品種ごとの穂肥標準施用量

品種名	肥料名	施肥時期	施肥量(10a)	備考
コシヒカリ	ニュー かん太郎有機	出穂20日前	15~20kg	三木地区は30kg
キヌヒカリ			25kg	
ヒノヒカリ			30kg	
山田錦	穂肥有機	出穂20日前	10kg	2回に分けて施肥
		出穂10日前	10kg	

- 元肥に一発肥料を使用した場合は、原則として穂肥は必要ありません。
- 穂肥施用時は、必ず湛水して下さい。振りムラや窒素吸収量低下の原因になります。
- 穂肥の時期が早いと、茎が長くなり倒伏しやすくなります。
遅いと食味を低下させる原因になりますので注意して下さい。

ニューかん太郎有機



穂肥有機



1 田んぼの中で、生育が平均的な株を選びます。



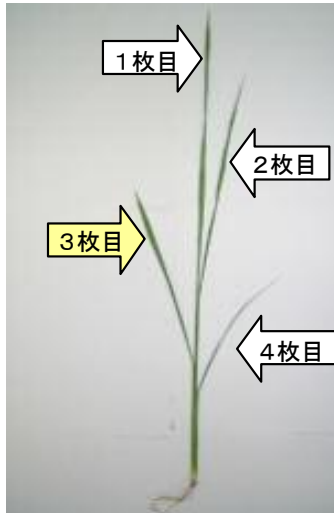
2 選んだ株の中で、一番長い葉を下からすくい上げて選びます。



3 一番長い茎を根を付けた状態で根元からかき取ります。



4 抜き取った代表株



3枚目の葉をヨード反応に使用
残りの茎で幼穂長を確認

施肥量を診断

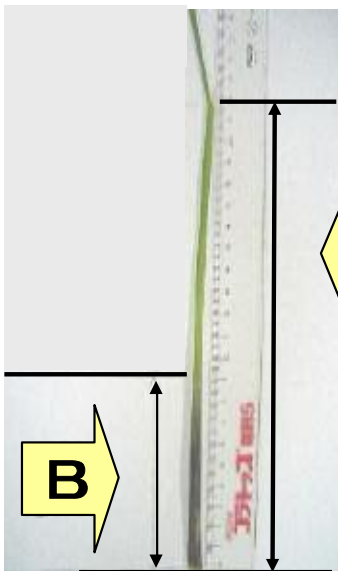
1 葉鞘部分を上から下に向けて、木槌などで均等に押しつぶします。



2 ヨードチンキを約5倍に薄めた液に押しつぶした葉鞘を2~3分間浸けます。



3 ヨード反応を調べます。



葉鞘中にデンプンの蓄積がある場合は黒紫色に染まります。

$$\text{染色割合} = B \div A \times 100 (\%)$$

茎の状態	染色割合	穂肥の施肥量
必要茎数が確保されている	50%以上	標準以上にやれる
	30~50%	標準どおりに施用できる
	30%以下	時期を遅らせて、量を減らす
必要茎数が確保されていない	70%	時期を早めて、量を増やす



ヨード反応部分

その他、下記について考慮した上で
穂肥の施用量を決めて下さい。

- 1 葉色
- 2 第3・4節間の伸長状態
- 3 いもち病の発生程度
- 4 茎数
- 5 葉の状態（直立・垂れ気味）、葉の伸び

施肥時期を診断

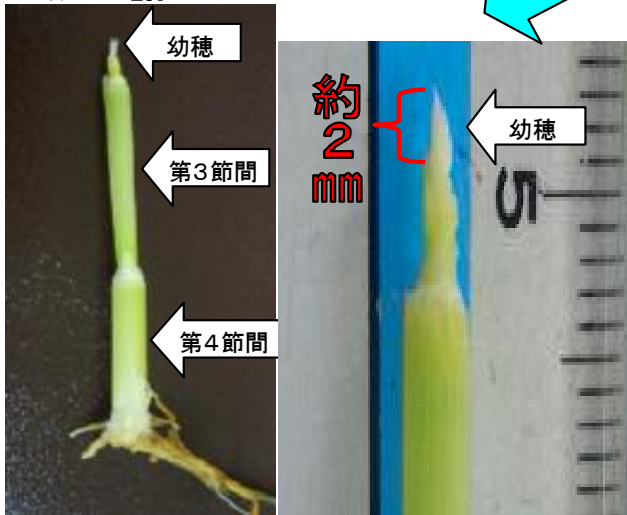
1 残りの葉鞘を一枚ずつ剥き、幼穂上部で切断します。



2 カッターナイフなどで一枚ずつ
丁寧に剥いていきます。



3 幼穂とともに、第3・4節間の
伸長を確認します。



幼穂は、筆のようにふさふさしている
部分です。

小粒
(コシヒカリ・キヌヒカリ・ヒノヒカリ)

幼穂長	出穂前日数
2~3mm	20日

山田錦

幼穂長	出穂前日数
2~3mm	20日
1.3~1.4mm	10日